＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉟ー約束を信じて旅する者たち』

武田真治牧師

創世記 ２１：１～８　ヘブライ書 １１：８～１２

《信仰の章》と呼ばれ、多くの旧約聖書の人物たちが登場する有名な 11 章に入っています。いよいよ“アブラハム”が登場します。即ち「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行く先も知らずに出発したのです。」と。創世記 12 章1～3 節にある『あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい』という神様から掛けられた言葉に従って、行く先も知らないままに旅に出たことは、まさに“信仰によって”のみ出来ることだと。確かにそうです。この点は私たちにもよくわかります。

ただ次の言葉「信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み」が分かりにくいかもしれません。これはそのようにして故郷を後にしたアブラハムが実は“約束の地（＝カナンの地）”へと導かれたことを指します。そうであるなら、そこに定住しても良かったはずです。土地を買って家を建ててと。しかし彼は「他国に宿るように」幕屋（＝テント）暮らしを止めなかったのでした。なぜでしょうか？　この点についてユダヤ教では、まだ家族も少なく、その土地も定住するにはふさわしくなかった（＝エルサレムが造られるほどではない）から神様が許されなかったと考えますが、ヘブライ書はそうではなく、アブラハムは「神が設計者であり建築者である堅固な都（＝天の都、天の故郷）を待望していたからである」と説いています。それは、この後の13 節に「自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表した」行動なのだと。そして、この信仰こそ私たち“キリスト者の持つべき信仰”なのだと！

もう一人、今日の箇所で「信仰によって」生きた人物が挙げられています。それがアブラハムの妻“サラ”です。彼女もまた「約束をなさった方（＝神様）は真実な方（＝うそをつかない）であると信じていた」が故に「年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました」と。ここではサラのことをとても評価しています。実は、これまでのユダヤ教では子供という恵みを与えられた女性と見られていましたが、アブラハムに比べて、彼女の信仰についてはそれ程評価されて来ませんでした。しかし、ヘブライ書は彼女も“信仰（＝神様の約束を信じる）によって”生きた存在だとアブラハムと同じように見ているのです。ユダヤ教からキリスト教に移ることによって大きく変わったのが、礼拝や伝道に於ける女性の役割だと言われています。人の数に入れられないでいたような女性や子供たちがキリスト教の信仰ではとても大きな役割を果たすようになるのです。それはイエス様の誕生の時に果たしたマリアさんの役割や復活の朝に最初にイエス様と出会った女性たちの存在の大きさから来ています。この箇所もそのような在り方がよく表されている箇所なのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．12 月 28 日（水）20：00
　　Ⅱ．12 月 29 日（木）10：30
聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　2022 年の歩みを振り返って
担 当 者：　（水）岩佐　（木）須田
祈りに覚える人：　飯島さん　　飯田さん
＊ひつじ雲の会　　12 月 27 日（火）13：30

【教勢報告】

主日礼拝　　男　23　　女　64　　計　87
祈祷会　Ⅰ．男6　女2　計8　　Ⅱ．男3　女9　計12
日曜学校　　幼稚科　9　　小中科　15　　計24

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週・新年礼拝】　　1月　1日（日）

聖　書：　創世記　２３：１～９
　　ヘブライ人への手紙　１１：１３～１６
説　教：　「ヘブライ㊱ ― 魂の故郷」武田真治 牧師
讃美歌：　３６７(1)、３２(1)、５７９(1と2)、
　　４６７(1と2)、９１(1)

【次週当番表】

司式:齋藤長老　奏楽:羽倉　礼拝:岩佐長老
献金：東　阿部　　受付：西尾　森本
看板：保坂　　週報：岩佐　　お花：森本

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会

６３－５２

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１２月　２５日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/